

研究活動報告

移民政策専門家会合 (SOPEMI, OECD) 参加報告

2019年10月2日から3日にかけてフランス、パリにあるOECD本部で「移民専門家会合 (SOPEMI)」が開催され、日本政府を代表して国立社会保障・人口問題研究所からは是川が参加した。同会合は、OECDの雇用労働社会問題委員会 (ELSAC) の下に設置され、毎年6月頃に開催される移民政策作業部会 (WPM) と並んで、毎年秋頃に行われるものであり、OECD加盟国各国の移民政策に関する専門家が一堂に会し、各国の最新の情報、意見交換を行うことを目的としたものである。

会合は2日間の日程で行われ、労働、経済移民から始まり、技能実習生や季節労働者などの一時的移民、家族移民、留学生、非正規移民、難民、及び難民の社会統合、並びに帰化といった論点について、それぞれ2、3か国の専門家から短いプレゼンテーションが行われた後、自由な討議が行われた。

また、本会合に先立って、国際移民の将来的な動向に関する戦略的予想 (strategic foresight) に関する会合が開催され、是川もタスクフォースの一員として参加し、技術革新、新興国の経済成長といった様々なマクロ要因の将来予測に沿った国際移民のトレンドの長期的な変化について討議した。

(是川 夕 記)

アクティブ・エイジングに関する新潟・マレーシア会議

新潟大学の主催により2020年2月4日、新潟県十日町市のホテルベルナティオで、アクティブ・エイジングに関するラウンドテーブルディスカッションが開催され、筆者は「アクティブ・エイジング指標—アジアでどのように測るか?」というタイトルで基調講演を行った。会議には、新潟大学医歯学総合研究科の菖蒲川由郷特任教授による研究プロジェクトで、マレーシアの大学 (国民大学 (UKM)、プトラ大学 (UPM)、サバ大学) と保健省の関係者が招聘され、アクティブ・エイジングに関わる国内外の関係者 (厚労省、日本医療研究開発機構 (AMED)、WHO、アジア・アセアン経済研究センター (ERIA)、日本老年学的評価研究機構、日本国際交流センター他) が参加した。日本とマレーシアにおける活動的な高齢化についての報告と情報交換が行われ、前後には会場がある新潟県十日町市における地域包括ケアに関わる施設等の見学が行われた。

例年になく雪がない2月であったが、マレーシアの参加者が十日町に到着した翌日、ようやく雪が降りだした。新型コロナに対してもまだ始まったばかり、という頃であったが、マレーシア人も、また道中に見かけられた外国人旅行者も、みなしっかりとマスクを着用していた。今となっては、その外国人旅行者も全くいなくなった状況であろう。新型コロナ感染症対策により、高齢者の生活がどのように影響を受けたのか、研究者のネットワークを生かしてフォローしていくことが求められよう。

(林 玲子 記)